



大原台

〒891-1393 鹿児島市宮之浦町862

TEL: 099 - 294 - 2311

FAX: 099 - 294 - 2309

かごしま教育ホットライン24

0120-783-574 (フリーダイヤル)

099-294-2200 (直通)

0570-0-78310 (全国統一ダイヤル)

平成24年度 調査研究発表会 御案内

【全体研究主題】生きる力を豊かに育てる学校教育の創造

【日時】平成25年1月25日(金) 午前9時30分～午後4時25分

【会場】県総合教育センター 大原台講堂 他

【日程等】

9:00 9:30 9:40 10:00 11:50 12:50 16:20 16:25

全体会			分科会		
受付	開会行事	調査研究の概要説明	研究発表	事例発表	研究協議
(30)	(10)	(20)	(110)	(60)	(210)

研究発表

教科教育研修課と教育相談課の2課が研究発表を行います。
各課の研究発表、質疑応答を行い、鹿児島大学教育学部のお二人の先生からそれぞれコメントをいただきます。コメンテーターとして、教科教育研修課には高谷哲也先生、教育相談課には大坪治彦先生を予定しています。(研究発表内容については、次のページを御覧ください。)



【鹿児島大学教育学部園屋先生からのコメント】



【分科会でのワークショップ型研究協議】

分科会

8つの分科会において「研究発表」、「研究協力員による事例発表」及び「ワークショップ型研究協議」を行います。(詳しくは次のページを御覧ください。)

第1分科会 国語科

第2分科会 社会・地歴・公民科

第3分科会 算数・数学科

第4分科会 理科

第5分科会 外国語活動、外国語科

第6分科会 情報教育

第7分科会 特別支援教育

第8分科会 教育相談

教科教育研修課

【研究主題】

思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価に関する研究

【研究のねらい】

適切な評価方法や、評価を生かした具体的な授業改善の方策を明らかにします。

【研究内容】

「思考・判断・表現」を見取る「判断基準」を設定し、それに基づく評価を生かした授業づくりについて発表します。

「思考・判断・表現」を評価するポイントの明確化

「何がどの程度できているか」を判断する視点の必要性

評価規準を基にした「判断基準」の設定

「判断基準」に基づく評価を生かした授業づくり

小・中・高等学校の研究協力員による授業実践

実践を通した研究成果等のまとめ



【昨年度の全体会研究発表の様子】



【熱心な参加者の様子】

教育相談課

【研究主題】

自己指導能力の育成に向けた生徒指導の在り方に関する研究

【研究のねらい】

児童生徒理解の深化と効果的な働きかけについて明らかにします。

【研究内容】

「学校楽しいと」を活用した児童生徒への効果的な指導、援助と関係機関との連携の在り方について発表します。

「学校楽しいと」は、子どもの学校適応感を客観的に把握することができる質問紙のことです。

〈質問事項〉

- 1 友達との関係
- 2 教師との関係
- 3 学習意欲
- 4 自己肯定感
- 5 心身の状況
- 6 学級集団への適応感
- ※ いじめの項目

表紙(中学生用)

学校楽しいと
— 中学生用 —



個人への活用



学級への活用



簡単 スピーディ 視覚的

子どもの状態を把握

児童生徒の状態及び学級の状況について、客観的に把握します。

効果的な指導、援助、連携の在り方を明らかにします。

学年・県全体との比較が可能

分科会名	教科等	研究主題等
第1分科会	国語科	研究主題：「思考力・判断力・表現力を育成する指導と評価に関する研究」 ○ 各教科における「思考・判断・表現」を見取る判断基準の設定と、それに基づく評価を生かした授業づくりについて協議します。
第2分科会	社会・地歴・公民科	
第3分科会	算数・数学科	
第4分科会	理科	
第5分科会	外国語活動、外国語科	研究主題：「情報活用能力の育成に関する研究～児童生徒のICT活用を通して～」 ○ 各学校段階において期待される情報活用能力と、これを児童生徒に身に付けさせるためのICT活用を通した指導方法等について協議します。
第6分科会	情報教育	
第7分科会	特別支援教育	研究主題：「特別支援学校における一貫性・系統性のある指導の在り方に関する研究」 ○ 特別支援学校小学部入学から高等部卒業までを見通した一貫性・系統性のある指導の充実を図るため、特別支援学校の現状と課題を踏まえた授業づくりについて協議します。
第8分科会	教育相談	研究主題：「自己指導能力の育成に向けた生徒指導の在り方に関する研究 ～『学校楽しいと』を活用した効果的な働きかけを通して～」 ○ 児童生徒理解の深化を図るための「学校楽しいと」の効果的な活用と、児童生徒への指導・援助について協議します。

鹿児島市立吉田南中学校
平成24年10月18日（木）

【研究主題】

「『確かな学力』を育む学習指導
—ICT活用と言語活動を通じた授業改善Ⅱ—」

【日程】（9:50～16:25）

- 1 全体会
・開会行事 ・研究発表
- 2 教科研究発表、授業参観の視点説明
- 3 公開授業
・国語科、社会科、数学科、理科、音楽科、美術科、保健体育科、技術・家庭科、英語科、特別支援教育
- 4 分科会
・国語科、社会科、数学科、理科、音楽科、美術科、保健体育科、技術・家庭科、英語科、特別支援教育
- 5 講演
・演題：「授業におけるICTの効果的な活用」
・講師：鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター 園屋 高志 教授

※ 午後からの会場は、県総合教育センターになります。

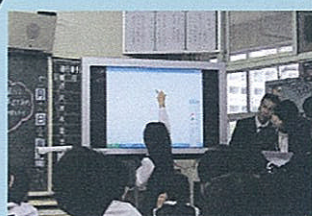


〔ICTを活用した美術科の授業〕

研究提携校 研究公開のお知らせ

本年度は、10月下旬から11月にかけて、当教育センター研究提携校4校で研究公開が開催されます。この4校では、児童生徒の発達の段階や自校の実態等を踏まえて研究主題を設定し、研究・実践に取り組んできた成果を発表します。多数の先生方の参加をお待ちしております。

※ 申込方法、詳細については、各学校からの案内を御覧ください。



〔ICTを活用して自分の考えを発表する算数科の授業〕

鹿児島市立山下小学校
平成24年11月9日（金）

【研究主題】

「自ら考え判断し、表現できる子どもを育てる
学習指導の開発Ⅱ」

【日程】（8:50～16:35）

- 1 公開授業A、B
・国語科、社会科、算数科、理科、体育科、道徳、特別支援教育
- 2 全体会
・研究発表 ・パネルディスカッション
- 3 分科会
・国語科、社会科、算数科、理科、体育科、道徳、特別支援教育
- 4 講演
・演題：「これからのグローバル時代に必要な力」
・講師：小川 理子 パナソニック株式会社CRS 社会文化グループマネージャ

県立松陽高等学校
平成24年10月31日（水）

【研究主題】

「個々の生徒の学力向上と進路実現を目指す授業改善
—基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用を図る学習指導—」

【日程】（13:15～16:40）

- 1 全体会
・開会行事 ・研究についての概要発表
- 2 公開授業
・国語科、地理歴史・公民科、数学科、理科、音楽科、美術科、英語科、教科「情報」
- 3 分科会
・国語科、地理歴史・公民科、数学科、理科、音楽科、美術科、英語科、家庭科、教科「情報」



〔実験を通じた化学（理科）の授業〕



〔ICTを活用した公民科の授業〕



〔実物のサトウキビを活用した社会科の授業〕

奄美市立宇宿小学校
平成24年11月22日（木）

【研究主題】

「学年別における複式社会科学習指導の充実」

【日程】（13:45～16:40）

- 1 全体会Ⅰ
・開会行事 ・研究発表
- 2 公開授業
・複式社会科（3・4年）
- 3 全体会Ⅱ
・研究協議 ・指導講話 ・閉会行事



〔みんなでつくる学習問題〕



〔大島紬について調べたことの発表〕

平成24年度 第Ⅱ期土曜講座 (お知らせ)

土曜日における研修を希望する教職員のニーズに応えるために、当教育センター等において希望研修講座を実施しています。第Ⅰ期(4月～7月実施)では、46講座に417人が参加され、自主的に指導力の向上に取り組まれました。

第Ⅱ期(9月～12月実施)についても、多数の参加をお待ちしております。

平成24年度第Ⅱ期講座一覧(10/27以降実施分)

【申込方法】 申込書(郵送) 〒891-1393 鹿児島市宮之浦町862
鹿児島県総合教育センター 企画課
【FAX】 099-294-2374 (企画課専用)
【Web】 <http://www.edu.pref.kagoshima.jp/>

期日	講座名	午前	午後
10月27日	楽しく学び合う栄養教諭講座2	○	
	今からでも間に合う?教育論文・実践報告の書き方入門講座	○	
	数学をやる気にさせる授業づくり講座	○	
	「読むこと」の授業改善を図る言語活動の一工夫	○	
	「アセスメントシート」活用講座Ⅱ⑦	○	
	めざそう!鹿児島県の教師(10月)		○
	今年の研究を総まとめ!教育論文・実践報告の書き方中級講座	○	
	「鹿児島県公立高等学校入学者選抜学力検査」の分析等を通じた社会科の授業づくり		○
	「アセスメントシート」活用講座Ⅱ⑧		○
	「みんなで取り組み、学び合う授業研究」の進め方		○
11月10日	おいしさの科学と調理1<発酵食品>		終日
	授業を変える!行動を変える!		終日
	授業をつくらう!!「基礎・基本」定着度調査等を生かした社会科の授業	○	
	数学的活動を充実させる数学科の授業づくり	○	
	「基礎・基本」定着度調査等を生かした国語科の授業づくり	○	
	「みんなで取り組み、学び合う授業研究」の進め方	○	
	めざそう!鹿児島県の教師(11月)		○
	中学校英語指導における効果的な辞書指導		○
	【生麦事件150年】今明らかになる生麦事件の全容		○
	第3回天体観測実習(基礎・基本編)～秋・冬～		夜間

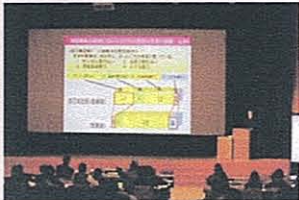
期日	講座名	午前	午後
12月1日	よい体育の授業を求めて!		終日
	あなたならどうする?「伝統的な言語文化」の授業		終日
	算数的活動を充実させる算数科の授業づくり		終日
	プレゼンテーションソフト活用基礎講座		終日
	「活用」を考えよう!!「基礎・基本」定着度調査等を生かした社会科の授業	○	
	問題の解決はこうやって!～問題の原因探索や解決プラン作成の手法を学ぶ～	○	
	見て やって 伝える 分かる 手話講座	○	
	これなら分かる!はじめて学ぶやさしい教育法規入門		○
	【古事記編纂1300年】可愛山陵をはじめとする日本三山陵が鹿児島県にあるのはなぜか		○
	安全に楽しく行う太陽の観察実習講座		○
12月8日	おいしさの科学と調理2<小麦粉・卵>		終日
	幼児とのかかわりを考える2		○
	豊かな将来のために～特別支援教育進路講座Ⅱ～『事業所就労編』	○	
	「みんなで取り組み、学び合う授業研究」の進め方	○	
	自然素材を使った創作活動(クラフト活動)		○
	めざそう!鹿児島県の教師(12月)		○
	平清盛の時代と南九州・南島		○
	ネットワークを利用した共同作業の進め方講座		○

■終日(9:30～16:00) ■午前(9:30～12:00)

■午後(13:30～16:00) ■夜間(18:00～21:00)

※一部、時間を変更して実施する講座もあります。

平成25年度 長期研修に ついて



【長期研修者研究発表会】

◎ 研修期間

平成25年4月～平成26年3月までの1年間

◎ 募集対象

- (1) 教職経験7年以上で、ステップアップ研修を修了し、かつ、パワーアップ研修に該当しない小学校、中学校及び特別支援学校の教員
- (2) 教職経験4年以上で、ステップアップ研修及びパワーアップ研修に該当しない高等学校の教員

◎ 応募手続

申込み等は、所属学校長を通じて市町村教育委員会(県立学校は当教育センター)へ提出してください。

※詳しくは、10月に送付される募集要項等を御覧ください。

■主な研修内容<次のような研修を行います!!>

- (1) 本研修
個々の研修者が、教育実践上の課題を解決するために、自分で設定した研究主題や研究計画に基づいて進める研修
- (2) 基礎研修(年間7回)
教職員の在り方や今日の教育課題等に関しての講義や演習、討議などを通して教員としての資質を向上させる研修
- (3) イングリッシュアワー(毎週1回)
ALTを講師として、英会話の基礎練習、英語によるゲームや歌を通して、国際理解教育の理解を深める研修
- (4) その他
所員講話(年間7回)、相互研修(年間5回)、教育相談事例研修会への参加(年間2回)などの研修も行います。

思い

お話出てこい

次長 大久保 剛

さて今日はどんなお話探そうか?週末の小さなお客様との決まり事である。六歳と二歳の男の子、若い両親は夜遅くまで勤勉に働く。必然として、近所に住む爺婆の家で過ごす慣わしとなっている。いつもより早めの夕食を済ますと、お客様はタタタツと階段を駆け上り、競うように、自分の好みの本を引っ張り出して、爺の腕枕の奪い合いが始まる。フックスタートよろしく産声を上げた時からの我が家の習慣である。

いつもの事ながら、お話は先に弟君が選ぶのだが、綺麗な挿絵を眺める内に、二十編ある話のあらすじは毎回網羅してしまう事に苦笑する。ひとしきり賑やかにお話が終わると「おりこうねえ(お利口)、かわしようにねえ(可哀想)」等の身振り手振りの読後感想会となる。

弟君が一段落すると、今度は僕の番だとお兄ちゃんがスルリと腕枕に滑り込んでくる。順番を待たてたご褒美の、も一つおまけのお話に上機嫌となる。いよいよ最後のお話、「はい、お仕舞い。」だったはずが、「あのね、七匹の子やぎのオオカミは石をおなかに入れられて、井戸にドボンって落ちたけど、ホントは、それから病院に行つて手術をしたら死ななから死なずにすんだんだよ。だって、死んだら悲しいもん。」聞いたこともないストーリーを展開し、いつの間にか幼子は眠りに就くのである。なるほど、話の中に自分の気持ちを重ねて聞いていることに、豊かな感性を身に付けてほしいと改めて願うのである。

季節は様々な研究の成果を発表する公開の時期を迎え、発表する側も参加する側も新しい発見に期待が膨らんでいるに違いない。日々研鑽された学校の営みが、将来、この子達をたくましく育ててくれることを期待して止まないものである。それまで、お話出てこい、続けていきたいものである。